

## 第2回「産科医療補償制度 再発防止委員会」

日時：平成22年9月27日（月）

16:00～18:00

場所：日本医療機能評価機構9階ホール

### 1. 開 会

### 2. 議 事

- 1) 第1回再発防止委員会の主な意見について
- 2) 数量的・疫学的な分析について
- 3) その他

### 3. 閉 会

資料1	報告書の概要（案）（第1回再発防止委員会資料）
資料2	再発防止分析対象事例の現況 集計表一覧（案）
資料3	再発防止分析対象事例の現況（案）
資料4	再発防止報告書の参考となるデータ一覧
資料5	再発防止報告書の参考となるデータ

## 1) 第1回再発防止委員会の主な意見について

### (1) 再発防止の考え方について

- 脳性麻痺発症の原因が不明な場合もあり、必ずしも原因が特定できるとは限らない。予防が不可能な事例についても「再発防止」を行うことに違和感がある。
- 医療過誤となるような事例と再発防止できない事例があることを前提にした議論を行い、防ぐことができるものを防ぐという考え方でよいのではないかと。

### (2) 提供する情報について

- 科学的根拠を再発防止委員会で示すことは難しいが、どのようなことが起っているかを伝えていくことに意味があるのではないかと。
- 誰が見ても明らかに問題となるケースは積極的に警鐘を鳴らし、一方で、現在の医学知識では明らかにできず、更に科学的根拠を必要とする事例に対しては慎重に情報提供する、と分けて考えることが重要である。
- 報告書は毎年出すべきである。
- 「産科事例情報(仮称)」の名称を「警鐘的事例集」等、インパクトのあるタイトルにすべきである。

### (3) 再発防止に関する情報の分析について

- 本制度で収集するデータは脳性麻痺発症事例であるが、因果関係を明らかにするためには、対照(コントロール)となるデータが必要ではないかと。
- 分析にあたっては、対照(コントロール)がないのもやむを得ない。再発防止委員会で分析を行う際は、限界を踏まえてやらざるを得ないのではないかと。
- 日本産婦人科医会や日本産科婦人科学会もデータを持っている。学術的な研究のために協力が得られるのではないかと。
- 再発防止委員会の中に研究班を作り、機構が研究助成を行う仕組みを作れないのか。
- 本制度を創設する過程において、「研究」を行うことは前提としていないため、それを行うのであれば、関係者の合意が必要ではないかと。
- まずは、データを蓄積していく作業が大切であり、データの蓄積には費用がかかるものである。
- 再発防止委員会では、科学的分析をはじめとして多くの取り組みが求められていると思うが、まずは、事務局でできること等を明確にする必要があるのではないかと。
- 分娩機関や学会等だけでなく、国に対しても提言を行うべきである。例えば、厚生労働科学研究の研究テーマとして挙げてもらうなどの働きかけを厚生労働省にすべきではないかと。

#### (4) 情報提供した内容の評価およびその方法について

- 3～5年先には、提言したことがどう実際の医療現場に反映されたかを評価し、フィードバックしていく必要がある。
- 提供した情報が医療過誤の減少に繋がっているかを確認したほうが良い。

#### (5) 分娩機関等における報告書等の活用について

- 原因分析委員会で「標準から逸脱している」と評価された事例や発生頻度の高い事例については、積極的に情報を発信すべきである。
- 日本産婦人科医会は分娩を行っている医療機関のほぼ100%をカバーしている。再発防止委員会とも連携して全ての産科医に確実に情報提供できる仕組みにすべきである。
- 教育の場にもこの情報を発信してほしい。

#### (6) その他

- 原因分析報告書には個人情報記載されておらず、また、開示請求があれば開示できるので、公開の審議の際に使用しても問題ないのではないか。

## 2) 数量的・疫学的な分析について

### (1) 掲載する集計表について

分娩機関および分析対象事例の現況について、数量的・疫学的な分析を行う。

- 資料1 報告書の概要(案)(前回資料)
- 資料2 再発防止分析対象事例の現況 集計表一覧(案)
- 資料3 再発防止分析対象事例の現況(案)

### (2) 参考となるデータの活用について

- 集計するデータは、本制度で補償対象となった脳性麻痺発症事例のデータである。再発防止に関する分析にあたっては、対照(コントロール)のデータを取るべきであるが、すぐに行うことは難しく、妊産婦および分娩に関する診療情報等、対照(コントロール)に準じたデータを参考にするなど、対照(コントロール)がない場合の分析の考え方についての議論を踏まえ、以下のとおり対応する。
- 集計するデータの一部については、参考値として活用できるデータの候補として、人口動態統計、国民健康・栄養調査、医療施設調査などの統計資料があり、これらを参考値として活用することとする。
  - 資料4 再発防止報告書の参考となるデータ一覧
  - 資料5 再発防止報告書の参考となるデータ
- 集計するデータのうち参考となるデータがない項目の集計結果も臨床的に有用であるため、このようなデータがなくても集計表を公表していく。
- 上記の他に日本産科婦人科学会の周産期登録事業で分娩に関する情報を収集し、結果を取りまとめ、学会誌を通じて公表されている。このデータは、周産期医療を実施している医療機関から収集されているため、本制度が対象としている分娩機関と母集団が異なる。再発防止に関する分析を取りまとめるにあたり、この結果を参考となるデータとして活用する場合、その活用可能性について検討が必要である。

## 報告書の概要（案）

## 今回の審議事項

## I. 数量的・疫学的な分析

ここでは、分娩機関および分析対象事例の現況について、以下の内容に関する数量的・疫学的な分析を行う。

## 1) 分析対象事例の状況

## (1) 分娩時の状況

分娩時間、分娩曜日、別の件数など

## (2) 妊産婦の属性

出産時の妊産婦の年齢区分、妊娠時・非妊娠時の体重およびBMI、既往分娩回数、合併症の有無、妊産婦の喫煙の有無、別の件数など

## (3) 今回の妊娠の経過に関する内容

健康診断の受診回数、臍帯の状態、別の件数など

## (4) 分娩の経過に関する内容

分娩場所、分娩進行中の異常（子宮破裂、臍帯脱出等）、児娩出時の胎位、娩出方法、別の件数など

## (5) 新生児の状態

出産時の妊娠週数、出生体重、発育状態、アプガースコア、臍帯動脈血ガス値、蘇生方法、新生児搬送の有無、新生児診断、別の件数など

## 2) 施設の状況

分娩機関の設備（救急医療機関の有無、周産期母子医療センターの有無、院内助産所の有無など）、分娩機関の医療安全体制、別の件数など

## 次回の審議事項

## II. テーマに沿った分析

ここでは、個々の事例についてテーマに沿った分析を行う。

## 【テーマ選定の視点】

胎児心拍数モニタリング、分娩・陣痛促進剤の使用、急速遂娩、新生児蘇生などの診療行為および分娩機関における設備や診療体制、わが国における産科医療体制等について、①一般性・普遍性、②発生頻度、③妊産婦・児への影響、④防止可能性、⑤教訓性、の観点からテーマを選定する。

## 再発防止分析対象事例の現況 集計表一覧 (案)

## 1. 再発防止分析対象事例の内容

## 1) 分娩の状況

表1-1-1	曜日別分娩件数
表1-1-2	出生時間別件数
表1-1-3	分娩週数別件数
表1-1-4	分娩場所

## 2) 妊産婦に関する基本情報

表1-2-1	出産時における妊産婦の年齢
表1-2-2	妊産婦の身長
表1-2-3	妊産婦の体重
表1-2-4	妊産婦のBMI
表1-2-5	妊娠中の体重の増減
表1-2-6	妊産婦の飲酒および喫煙の有無
表1-2-7	妊産婦の既往
表1-2-8	既往分娩回数
表1-2-9	経産婦における既往帝王切開術の回数

## 3) 今回の妊娠経過

表1-3-1	不妊治療の有無
表1-3-2	妊婦健診受診状況
表1-3-3	産科合併症
表1-3-4	胎児数
表1-3-5	胎盤位置
表1-3-6	羊水量異常

## 4) 分娩経過

表1-4-1	児娩出時の胎位
表1-4-2	児娩出経路
表1-4-3	和痛・無痛分娩の実施の有無
表1-4-4	経膣分娩における分娩所要時間(全分娩時間および分娩第1期)
表1-4-5	経膣分娩における分娩所要時間(分娩第2期)
表1-4-6	経膣分娩および帝王切開における分娩所要時間(破水から児娩出まで)
表1-4-7	分娩進行中の異常
表1-4-8	子宮破裂事例における子宮手術の既往の有無
表1-4-9	臍帯脱出・下垂事例における関連因子
表1-4-10	分娩誘発・促進の処置の有無
表1-4-11	分娩誘発・促進の処置の方法
表1-4-12	人工破膜実施時の子宮口の状態
表1-4-13	人工破膜実施時の先進部の高さ

- 表1-4-14 急速遂娩決定から児娩出までの時間
- 表1-4-15 クリステレル胎児圧出法の実施の有無
- 表1-4-16 帝王切開決定から児娩出までの時間
- 表1-4-17 吸引分娩および鉗子分娩の回数
- 表1-4-18 急速遂娩の有無および適応
- 表1-4-19 胎児心拍数異常の有無
- 表1-4-20 胎児心拍数モニタリングの有無
- 表1-4-21 基線異常
- 表1-4-22 基線細変動
- 表1-4-23 胎児心拍数一過性徐脈の有無
- 表1-4-24 サイナソイダルパターンの有無

#### 5) 新生児の経過

- 表1-5-1 出生体重
- 表1-5-2 出生時の発育状態
- 表1-5-3 新生児の性別
- 表1-5-4 アプガースコア
- 表1-5-5 臍帯動脈血のpH
- 表1-5-6 臍帯巻絡の有無とその回数
- 表1-5-7 新生児に実施した蘇生法
- 表1-5-8 新生児搬送の有無
- 表1-5-9 新生児診断

## 2. 再発防止分析対象事例における診療体制

- 表2-1-1 病院における診療体制
- 表2-1-2 病院および診療所における院内助産(所)の有無
- 表2-1-3 診療所および助産所における産科オープンシステム登録の有無
- 表2-1-4 年間分娩件数別再発防止分析対象事例の件数
- 表2-1-5 分娩機関の医療安全体制
- 表2-1-6 分娩に関わる医療従事者の常勤職員数(医師)
- 表2-1-7 分娩に関わる医療従事者の常勤職員数(助産師・看護師)
- 表2-1-8 事例に関わった医療従事者の経験年数

## 3. 再発防止分析対象事例の概況

- 表3-1-1 分娩機関区分別再発防止分析対象事例数
- 表3-1-2 地域別再発防止分析対象事例数

## 4. 参考

- 表4-1-1 産科医療補償制度加入分娩機関数および登録児数の現況
- 表4-1-2 地域別産科医療補償制度加入分娩機関数および登録児数

## 再発防止分析対象事例の現況（案）

## 1. 再発防止分析対象事例の内容

## 1) 分娩の状況

表 1-1-1 曜日別分娩件数

曜日	件数	日曜・祝日（再掲）
月曜日		
火曜日		
水曜日		
木曜日		
金曜日		
土曜日		
日曜日		
合計		

表 1-1-2 出生時間別件数

時間帯	件数	%
0～1 時台		
2～3 時台		
4～5 時台		
6～7 時台		
8～9 時台		
10～11 時台		
12～13 時台		
14～15 時台		
16～17 時台		
18～19 時台		
20～21 時台		
22～23 時台		
時間帯不明		
合計		

表 1-1-3 分娩週数別件数

分娩週数	件数	%
満 28～29 週		
満 30～31 週		
満 32 週		
満 33 週		
満 34 週		
満 35 週		
満 36 週		
満 37 週		
満 38 週		
満 39 週		
満 40 週		
満 41 週		
満 42 週		
満 43 週以上		
合計		

注) 妊娠満 37 週以降満 42 週未満の分娩が正期産である。

表 1-1-4 分娩場所

分娩場所	件数	%
当該分娩機関		
自宅 (出張分娩)		
自宅 (出張分娩以外)		
救急車内		
その他		
合計		

2) 妊産婦に関する基本情報

表 1 - 2 - 1 出産時における妊産婦の年齢

妊産婦の年齢	件数	%
20 歳未満		
20～24 歳		
25～29 歳		
30～34 歳		
35～39 歳		
40～44 歳		
45～49 歳		
50 歳以上		
合計		

表 1 - 2 - 2 妊産婦の身長

身長	件数	%
140cm 未満		
140cm 以上～150cm 未満		
150cm 以上～160cm 未満		
160cm 以上～170cm 未満		
170cm 以上～180cm 未満		
180cm 以上		
合計		

表 1 - 2 - 3 妊産婦の体重

非妊娠時・分娩時 体重	非妊娠時		分娩時	
	件数	%	件数	%
40kg 未満				
40kg 以上～50kg 未満				
50kg 以上～60kg 未満				
60kg 以上～70kg 未満				
70kg 以上～80kg 未満				
80kg 以上～90kg 未満				
90kg 以上				
不明				
合計				

表1-2-4 妊産婦のBMI<sup>注)</sup>

BMI		非妊娠時・分娩時		分娩時	
		件数	%	件数	%
やせ	18.5未満				
正常	18.5以上～25.0未満				
肥満Ⅰ度	25.0以上～30.0未満				
肥満Ⅱ度	30.0以上～35.0未満				
肥満Ⅲ度	35.0以上～40.0未満				
肥満Ⅳ度	40.0以上				
不明					
合計					

注) BMI (Body Mass Index: 肥満指数) = 身長 (m) ÷ 体重 (kg)<sup>2</sup>

出典: WHO BMI classification. The International Classification of adult underweight, overweight and obesity according to BMI

表1-2-5 妊娠中の体重の増減

体重の増減	件数	%
-10kg超		
-10kg～-5 kg 未満		
-5 kg～±0 kg 未満		
±0 kg～+5 kg 未満		
+5 kg～+10 kg 未満		
+10 kg～+15 kg 未満		
+15 kg～+20 kg 未満		
+20 kg 以上		
不明		
合計		

注) 体格区分別 妊娠全期間を通しての推奨体重増加量は、低体重(やせ: BMI18.5 未満)の場合、9～12kg、ふつう(BMI18.5 以上 25.0 未満)の場合、7～12kg、肥満(BMI25.0 以上)の場合、個別対応とされている。

出典: 厚生労働省 妊産婦のための食生活指針 平成18年2月

表 1-2-6 妊産婦の飲酒および喫煙の有無

有無	飲酒・喫煙の別	喫煙		飲酒	
		件数	%	件数	%
なし					
あり					
	非妊娠時のみ				
	妊娠時のみ				
	非妊娠時と妊娠時両方				
	いずれか不明				
不明					
合計					

表 1-2-7 妊産婦の既往

【重複回答あり】 対象数＝

既往	件数
既往なし	
高血圧	
糖尿病	
甲状腺疾患	
心疾患	
脳血管疾患	
自己免疫疾患	
精神疾患	
婦人科疾患	

表 1-2-8 既往分娩回数

回数	件数	%
0回		
1回		
2回		
3回		
4回		
5回以上		
合計		

表 1-2-9 経産婦における既往帝王切開術の回数

回数	件数	%
0回		
1回		
2回		
3回以上		
合計		

3) 今回の妊娠経過

表 1-3-1 不妊治療の有無

不妊治療	件数	%
なし		
あり		
合計		

表 1-3-2 妊婦健診受診状況

受診状況	件数	%
定期的に受診		
受診回数に不足あり		
未受診		
不明		
合計		

注) 妊婦健診の実施時期については、次に示す時期が望ましいとされている。

妊娠初期から妊娠 23 週(第 6 月末)まで：4 週間に 1 回

妊娠 24 週(第 7 月)から妊娠 35 週(第 9 月末)まで：2 週間に 1 回

妊娠 36 週(第 10 月)以降分娩まで：1 週間に 1 回

出典：「母性・乳幼児に対する健康診査及び保健指導の実施について」平成 8 年 11 月 20 日児発第 934 号厚生省児童家庭局長通知，「妊婦健康診査の実施について」平成 21 年 2 月 27 日雇児母発第 0227001 号厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長通知

表 1-3-3 産科合併症

【重複回答あり】 対象数＝

産科合併症	件数
切迫早産	
頸管無力症	
妊娠高血圧症候群	
妊娠糖尿病	

表 1-3-4 胎児数

胎児数	件数	%
単胎		
双胎		
品胎		
それ以外		
合計		

表 1-3-5 胎盤位置

胎盤位置	件数	%
正常		
前置胎盤		
低置胎盤		
不明		
合計		

表 1-3-6 羊水量異常

羊水量異常	件数	%
羊水過多		
羊水過少		
異常なし		
不明		
合計		

4) 分娩経過

表 1-4-1 児娩出時の胎位

胎位 \ 娩出経路	経膈分娩		帝王切開 <sup>注)</sup>	
	件数	%	件数	%
頭位				
骨盤位				
横位				
不明				
合計				

注) 経膈分娩から帝王切開になった事例を含む。

表 1-4-2 児娩出経路

児娩出経路	件数	%
経膈分娩		
帝王切開		
予定帝王切開		
緊急帝王切開		
合計		

表 1-4-3 和痛・無痛分娩の実施の有無

和痛・無痛分娩	件数	%
実施なし		
実施あり		
合計		

表 1-4-4 経膈分娩における分娩所要時間（全分娩時間および分娩第1期）

所要時間 \ 分娩期間	全分娩時間 <sup>注1)</sup>				分娩第1期 <sup>注2)</sup>			
	初産		経産		初産		経産	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
3 時間未満								
3 時間以上～6 時間未満								
6 時間以上～9 時間未満								
9 時間以上～12 時間未満								
12 時間以上～15 時間未満								
15 時間以上～18 時間未満								
18 時間以上～21 時間未満								
21 時間以上～24 時間未満								
24 時間以上～27 時間未満								
27 時間以上～30 時間未満								
30 時間以上								
不明								
合計								

注 1) 陣痛が 10 分間隔になってから胎盤娩出までの時間であり、一般的に初産婦は 12～15 時間、経産婦は 5～8 時間といわれている。

注 2) 陣痛が 10 分間隔になってから子宮口が完全に開く（子宮口全開大）までの期間のことであり、一般的に初産婦は 10～12 時間、経産婦は 4～6 時間といわれている。

出典：荒木勤. 最新産科学正常編. 改定第 22 版, 東京, 文光堂, 2010, 237-245p.

表 1-4-5 経膈分娩における分娩所要時間（分娩第 2 期）

所要時間 \ 分娩期間	分娩第 2 期 <sup>注1)</sup>			
	初産		経産	
	件数	%	件数	%
30 分未満				
30 分以上～1 時間未満				
1 時間以上～1 時間 30 分未満				
1 時間 30 分以上～2 時間未満				
2 時間以上～2 時間 30 分未満				
2 時間 30 分以上～3 時間未満				
3 時間以上				
不明				
合計				

注 1) 子宮口が完全に開いてから、児が娩出するまでの期間のことであり、一般的には初産婦は 2～3 時間、経産婦は 1～1.5 時間といわれている。

出典：荒木勤. 最新産科学正常編. 改定第 22 版, 東京, 文光堂, 2010, 237-245p.

表 1-4-6 経膈分娩および帝王切開における分娩所要時間（破水から児娩出まで）

所要時間 \ 分娩期間	破水から児娩出まで			
	初産		経産	
	件数	%	件数	%
3 時間未満				
3 時間以上～6 時間未満				
6 時間以上～9 時間未満				
9 時間以上～12 時間未満				
12 時間以上～15 時間未満				
15 時間以上～18 時間未満				
18 時間以上～21 時間未満				
21 時間以上～24 時間未満				
24 時間以上～27 時間未満				
27 時間以上～30 時間未満				
30 時間以上				
不明				
合計				

表1-4-7 分娩進行中の異常

【重複回答あり】 対象数＝

分娩進行中の異常	あり
常位胎盤早期剥離	
子宮破裂	
臍帯脱出・下垂	
微弱陣痛	
羊水混濁	
子宮内感染	
肩甲難産	

表1-4-8 子宮破裂事例における子宮手術の既往の有無

子宮手術の既往の有無	件数	%
既往なし		
帝王切開の既往あり		
その他の子宮手術の既往あり		
帝王切開とその他の子宮手術の既往あり		
合計		

表1-4-9 臍帯脱出・下垂事例における関連因子

【重複回答あり】 対象数＝

関連因子	件数
人工破膜	
メトロイリーゼ法 <sup>注1)</sup>	
経産婦	
陣痛誘発・促進剤 <sup>注2)</sup> 投与	
骨盤位	
横位	
羊水過多	

注1) 陣痛誘発と子宮口の開大を促す方法の一つである。ゴムでできた風船のようなものを膨らまさない状態で子宮口から中に入れ、その後生理食塩水を注入して子宮の中で膨らませ、それによって子宮口を刺激して開大を促進する。

注2) ここで扱う陣痛誘発・促進剤とは、オキシトシン、PGF2 $\alpha$ 、PGE2である。

表1-4-10 分娩誘発・促進の処置<sup>注)</sup>の有無

分娩誘発・促進の処置	件数	%
誘発・促進なし		
誘発・促進あり		
合計		

注) ここで扱う分娩誘発・促進の処置は、メトロイリーゼ法の実施、子宮頸管拡張器の挿入、人工破膜の実施、分娩誘発・促進のための薬剤投与を行ったものである。

表1-4-11 分娩誘発・促進の処置<sup>注1)</sup>の方法

【重複回答あり】 対象数＝

分娩誘発・促進の処置の方法	件数
メトロイリーゼ法 <sup>注2)</sup>	
子宮頸管拡張器 <sup>注3)</sup>	
人工破膜	
薬剤の投与	
オキシトシンの投与	
PGF2 $\alpha$ の投与	
PGE2の投与	
その他	

注1) ここで扱う分娩誘発・促進の処置は、メトロイリーゼ法の実施、子宮頸管拡張器の挿入、人工破膜の実施、分娩誘発・促進のための薬剤投与を行ったものである。

注2) 陣痛誘発と子宮口の開大を促す方法の一つである。ゴムでできた風船のようなものを膨らまさない状態で子宮口から中に入れ、その後生理食塩水を注入して子宮の中で膨らませ、それによって子宮口を刺激して開大を促進する。

注3) 陣痛誘発と子宮口の開大を促すために使用するもので、ラミナリア桿、ラミセル、ダイラパンSなどがある。

表1-4-12 人工破膜実施時の子宮口の状態

子宮口の状態	件数	%
0～2cm台		
3～6cm台		
7～9cm台		
全開大		
不明		
合計		

表1-4-13 人工破膜実施時の先進部の高さ

ST	件数	%
~-3		
-2~-1		
±0~+1		
+2~+3		
+4~		
不明		
合計		

表1-4-14 急速遂娩<sup>注)</sup> 決定から児娩出までの時間

所用時間 娩出経路	10分	10分	20分	30分	40分	50分	60分	合計	【再掲】 クリステレ ル胎児 圧出法併用
	未満	以上 20分 未満	以上 30分 未満	以上 40分 未満	以上 50分 未満	以上 60分 未満	60分 以上		
吸引分娩									
鉗子分娩									
帝王切開									
吸引分娩→鉗子分娩									
吸引分娩→帝王切開									
吸引分娩→鉗子分娩→帝 王切開									
鉗子分娩→帝王切開									
合計									

注) ここで扱う急速遂娩とは、吸引分娩、鉗子分娩、緊急帝王切開を実施したものである。

表1-4-15 クリステレル胎児圧出法の実施の有無

クリステレル胎児 圧出法の実施	件数	%
なし		
あり		
合計		

表1-4-16 帝王切開決定から児娩出までの時間

所要時間	件数	%
10分未満		
10分以上～20分未満		
20分以上～30分未満		
30分以上～40分未満		
40分以上～50分未満		
50分以上～60分未満		
60分以上		
合計		

表1-4-17 吸引分娩および鉗子分娩の回数

回数	吸引分娩		鉗子分娩	
	件数	%	件数	%
実施なし				
1回				
2回				
3回				
4回				
5回				
6回以上				
不明				
合計				

表1-4-18 急速遂娩<sup>注)</sup>の有無および適応

急速遂娩の有無および適応		件数	%
なし			
あり			
適応 【重複回答あり】	胎児機能不全		
	分娩遷延		
	その他		
	不明		
合計			

注) ここで扱う急速遂娩とは、吸引分娩、鉗子分娩、緊急帝王切開を実施したものである。

表1-4-19 胎児心拍数異常の有無

胎児心拍数異常	件数	%
なし		
あり		
記録不良		
不明 (記載もCTGもないもの)		
合計		

表1-4-20 胎児心拍数モニタリングの有無

モニタリングの有無	分娩中 <sup>注)</sup> (件数)	分娩直前 (件数)
なし		
あり		
合計		

注) 分娩開始する前に緊急帝王切開に至った事例も含む。緊急帝王切開に至った事例については、出床まで分娩監視装置によるモニタリングを行っていた事例である。

表1-4-21 基線異常

対象数＝

基線異常		件数	%
異常あり			
「重複回答あり」	頻脈 <sup>注1)</sup>		
	徐脈 <sup>注1)</sup>		
記録不良			
異常なし <sup>注2)</sup>			
合計			

注1) 提出された全ての胎児心拍モニタリングのうち児娩出までに判定し得る全ての所見である。

注2) 全てのモニターで基線異常がない事例である。

表1-4-22 基線細変動

対象数＝

基線細変動		件数	%
異常あり			
【重複回答あり】	減少 <sup>注1)</sup>		
	消失 <sup>注1)</sup>		
	増加 <sup>注1)</sup>		
記録不良			
異常なし <sup>注2)</sup>			
合計			

注1) 提出された全ての胎児心拍モニタリングのうち児娩出までに判定し得る全ての所見である。

注2) 全てのモニターで基線細変動が正常な事例である。

表1-4-23 胎児心拍数一過性徐脈の有無

対象数＝

程度	あり (件)			なし (件)	不明 (件)
	【重複回答あり】				
一過性徐脈	軽度 (件)	高度 (件)	程度不明 (件)		
変動一過性徐脈 <sup>注)</sup>					
遅発性一過性徐脈 <sup>注)</sup>					
遷延一過性徐脈 <sup>注)</sup>					

注) 提出された全ての胎児心拍モニタリングのうち児娩出までに判定し得る全ての所見である。

表1-4-24 サイナソイダルパターンの有無

対象数＝

サイナソイダルパターン	件数	%
なし		
あり		
合計		

5) 新生児の経過

表 1-5-1 出生体重

体重 (g)	件数	%
1,500 未満		
1,500 以上～2,000 未満		
2,000 以上～2,500 未満		
2,500 以上～3,000 未満		
3,000 以上～3,500 未満		
3,500 以上～4,000 未満		
4,000 以上		
合計		

表 1-5-2 出生時の発育状態

発育状態	件数	%
Light for dates (LFD) <sup>注1)</sup>		
Appropriate for dates (AFD)		
Heavy for dates (HFD) <sup>注2)</sup>		
合計		

注1) Light for dates (LFD)は、在胎週数別出生体重基準値の10パーセント未満の児を示す。

注2) Heavy for dates (HFD)は、在胎週数別出生体重基準値の90パーセントを超える児を示す。

表 1-5-3 新生児の性別

性別	件数	%
男児		
女児		
不明		
合計		

表1-5-4 アプガースコア<sup>注)</sup>

アプガースコア	時間	1分後		5分後	
		件数	%	件数	%
0点					
1点					
2点					
3点					
4点					
5点					
6点					
7点					
8点					
9点					
10点					
不明					
合計					

注) アプガースコアとは、分娩直後の新生児状態を①心拍数、②泣き声の強さ、③手足の動きの活発さ、④反応の良さ、⑤皮膚の色の5項目で評価する方法である。

表1-5-5 臍帯動脈血のpH

pH	件数	%
7.4以上		
7.3台		
7.2台		
7.1台		
7.0台		
6.9台		
6.8台		
6.7台		
6.7未満		
不明		
合計		

表1-5-6 臍帯巻絡の有無とその回数

臍帯巻絡の有無とその回数	件数	%
臍帯巻絡なし		
臍帯巻絡あり		
1回		
2回		
3回以上		
不明		
合計		

表1-5-7 新生児に実施した蘇生法

【重複回答あり】 対象数＝

蘇生法	件数
酸素投与 <sup>注)</sup>	
人工呼吸	
気管挿管	
胸骨圧迫	
アドレナリン投与	
上記の蘇生法の実施なし	

注) 酸素投与の件数は、診療録等の記録に基づく件数である。

表1-5-8 新生児搬送の有無

新生児搬送	件数	%
なし		
あり		
合計		

表1-5-9 新生児診断

【重複回答あり】 対象数＝

新生児診断	件数
低酸素性虚血性脳症	
胎便吸引症候群	
頭蓋内出血	
脳浮腫	
頭蓋骨骨折	
帽状腱膜下血腫	

注) 新生児診断は、原因分析の段階で判断されているものについて集計した件数である。

## 2. 再発防止分析対象事例における診療体制

表2-1-1 病院における診療体制

診療体制		件数
救急医療機関	なし	
	あり	
	初期	
	二次	
	三次	
	合計	
周産期指定	なし	
	あり	
	総合周産期母子医療センター	
	地域周産期母子医療センター	
	合計	

表2-1-2 病院および診療所における院内助産（所）の有無

院内助産（所）の有無	あり	なし	合計
病院			
診療所			
合計			

表2-1-3 診療所および助産所における産科オープンシステム<sup>注)</sup>登録の有無

産科オープンシステム登録の有無	あり	なし	合計
診療所			
助産所			
合計			

注) 産科オープンシステムにはセミオープンシステムを含む。

オープンシステムとは、妊婦健診は診療所で行い、分娩は診療所の医師自身が連携病院に赴いて行う場合であり、セミオープンシステムとは、妊婦健診をたとえば9ヶ月位まで診療所で診療所の医師が行い、その後は提携病院へ患者を送る場合である。

出典：平成16年度 厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野医療技術評価総合研究「産科領域における安全対策に関する研究（主任研究者：中林正雄）」

表 2-1-4 年間分娩件数別再発防止分析対象事例の件数

年間分娩件数 \ 分娩機関区分	病院 (件数)	診療所 (件数)	助産所 (件数)	合計 (件数)
10 件未満				
10 件以上～20 件未満				
20 件以上～40 件未満				
40 件以上～60 件未満				
60 件以上～80 件未満				
80 件以上～100 件未満				
100 件以上～150 件未満				
150 件以上～200 件未満				
200 件以上～300 件未満				
300 件以上～400 件未満				
400 件以上～500 件未満				
500 件以上～600 件未満				
600 件以上～700 件未満				
700 件以上～800 件未満				
800 件以上～900 件未満				
900 件以上～1000 件未満				
1000 件以上				
合計				

表 2-1-5 分娩機関の医療安全体制

医療安全体制	病院 (件数)	診療所 (件数)	助産所 (件数)	合計
医療に係る安全管理のための指針の整備				
医療に係る安全管理のための委員会の開催				
医療に係る安全管理のための職員研修の実施				
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策				
専任の安全管理者の配置				
その他				

表2-1-6 分娩に関わる医療従事者の常勤職員数（医師）<sup>注)</sup>

対象数＝

職種 常勤職員数	産婦人科医 (施設)	小児科医 (施設)	麻酔科医 (施設)
0人			
1人			
2人			
3人			
4人			
5人			
6～10人			
11～15人			
16～20人			
21～25人			
26～30人			
30人以上			
合計			

注) 分娩機関において、分娩に関わることができる医師の数である。

表2-1-7 分娩に関わる医療従事者の常勤職員数（助産師・看護師）<sup>注)</sup>

職種 常勤職員数	助産師 (施設)	看護師 (施設)
0人		
1～5人		
6～10人		
11～15人		
16～20人		
21～25人		
26～30人		
30人以上		
合計		

注) 分娩機関において、分娩に関わることができる助産師および看護師の数である。

表 2-1-8 事例に関わった医療従事者の経験年数

職種 経験年数	産婦人科医 (人)	小児科医 (人)	麻酔科医 (人)	助産師 (人)	看護師 (人)
0年					
1年					
2年					
3年					
4年					
5年					
6年					
7年					
8年					
9年					
10年					
11年～20年					
21年～30年					
31年以上					
合計					

### 3. 再発防止分析対象事例の概況

表3-1-1 分娩機関区別再発防止分析対象事例数

分娩機関区分	件数
病院	
診療所	
助産所	
合計	

表3-1-2 地域別再発防止分析対象事例数

地域	件数
北海道	
東北	
関東甲信越	
東海北陸	
近畿	
中国四国	
九州沖縄	
合計	

#### 4. 参考

表4-1-1 産科医療補償制度加入分娩機関数<sup>注1)</sup> および登録児数<sup>注2)</sup> の現況

区分	登録数	
	分娩機関	児
病院		
診療所		
助産所		
合計		

注1) 平成21年12月31日現在、本制度に加入している分娩機関数を示す。

注2) 平成21年12月31日現在、登録されている児の数を示す。

表4-1-2 地域別産科医療補償制度加入分娩機関数<sup>注1)</sup> および登録児数<sup>注2)</sup>

地域	登録数	
	分娩機関	児
北海道		
東北		
関東甲信越		
東海北陸		
近畿		
中国四国		
九州沖縄		
合計		

注1) 平成21年12月31日現在、本制度に加入している分娩機関数を示す。

注2) 平成21年12月31日現在、登録されている児の数を示す。

## 再発防止報告書の参考となるデータ一覧

## 1. 集計するデータのうち国の統計資料が活用できるもの

曜日別分娩件数
出生時間別件数
分娩週数別件数
分娩場所
出産時における妊産婦の年齢
妊産婦の身長
妊産婦の体重
妊産婦のBMI
妊産婦の飲酒および喫煙の有無
既往分娩回数
胎児数
児娩出経路
出生体重
新生児の性別

活用可能な国のデータ

- 人口動態統計特殊報告
- 人口動態調査
- 国民健康・栄養調査報告
- 医療施設調査

## 2. 参考となるデータとして、何らかの指標を提示する項目

項目	提示する指標
妊娠中の体重の増減	推奨体重増加量を提示
妊婦健診受診状況	厚生労働省の通知に記載されている、妊婦健康診査の実施の望ましい時期と回数を提示
経膈分娩における分娩所要時間（全分娩時間および分娩第1期）	標準的な時間を提示
経膈分娩における分娩所要時間（分娩第2期）	標準的な時間を提示
出生時の発育状態（LFD, AFD, HFD）	児のパーセンタイルを示す指標であることを提示

## 3. 参考となるデータがない項目

集計表にある項目のうち上記1. 2以外の項目については、参考となるデータがない。しかし、参考となるデータがない項目の集計結果も臨床的に有用であるため、参考となるデータがなくても集計表を公表していく。

## 再発防止報告書の参考となるデータ

平成17年度 出生に関する統計(人口動態統計特殊報告)

第21-2表 出生数、出生曜日・時間・出生の場所・年次別 -平成16年-

注:月～日曜日は祝日・年末年始を除く。祝日は国民の休日に関する法律による。年末年始は1/1～1/3,12/29～12/31。

出生時間	総数	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	(別掲) 祝日・ 年末年始
総数	1,110,721	149,736	172,829	159,818	154,557	168,655	134,334	122,027	48,765
0時	33,595	4,118	4,897	4,436	4,473	4,783	4,592	4,463	1,833
1時	35,117	4,396	4,965	4,627	4,708	4,929	4,786	4,862	1,844
2時	36,245	4,588	5,339	4,869	4,682	5,062	4,872	4,885	1,948
3時	37,051	4,751	5,400	5,059	4,859	5,121	4,902	4,967	1,982
4時	37,669	4,842	5,383	5,115	4,953	5,129	5,107	5,137	2,003
5時	37,856	4,894	5,404	5,069	4,945	5,235	5,042	5,278	1,989
6時	37,450	4,790	5,396	4,989	4,901	5,176	5,093	5,141	1,954
7時	39,318	5,009	5,502	5,305	5,205	5,393	5,442	5,416	2,046
8時	42,058	5,324	5,991	5,497	5,610	6,032	5,781	5,695	2,128
9時	48,361	6,124	7,545	6,922	7,047	7,090	5,621	5,703	2,309
10時	51,267	6,343	7,780	7,351	7,166	7,740	6,271	6,145	2,471
11時	54,841	6,981	8,527	8,041	7,704	8,378	6,659	6,100	2,451
12時	57,846	7,733	9,064	8,643	8,042	9,042	7,140	5,738	2,444
13時	80,446	11,251	14,363	12,575	12,220	13,879	8,318	5,436	2,404
14時	81,068	11,529	14,195	12,983	12,602	13,782	8,228	5,420	2,319
15時	68,172	9,731	11,659	10,539	10,200	11,436	7,048	5,321	2,238
16時	61,045	8,820	10,256	9,414	8,780	9,976	6,562	5,127	2,110
17時	52,991	7,626	8,591	7,881	7,455	8,388	5,932	5,029	2,089
18時	45,916	6,794	7,261	6,639	6,283	6,998	5,341	4,729	1,871
19時	38,979	5,594	5,999	5,577	5,183	5,842	4,666	4,338	1,780
20時	35,121	4,936	5,200	4,925	4,657	5,141	4,335	4,272	1,655
21時	32,796	4,517	4,743	4,534	4,354	4,729	4,079	4,244	1,596
22時	31,865	4,419	4,575	4,299	4,102	4,593	4,175	4,106	1,596
23時	32,687	4,486	4,648	4,396	4,292	4,636	4,221	4,354	1,654
不詳	971	130	146	133	134	146	121	121	41

(妊娠期間別にみた出生)  
 (Live births by period of gestation)

表 4.24 妊娠期間別にみた年次別出生数及び百分率<sup>1)</sup>

Table 4.24 Trends in live births and percent distribution by period of gestation : Japan

妊娠期間 Period of gestation	1980 昭和55年	1985 60年	1990 平成2年	1995 7年	2000 12年	2004 16年	2005 17年	2006 18年	2007 19年	2008 20年
実 数 Number										
総数 Total	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064	1 190 547	1 110 721	1 062 530	1 092 674	1 089 818	1 091 156
満22週未満 Under 22 completed weeks	33	37	26	12	5	5	4	13	9	11
満22週～満23週 22-23 completed weeks	106	188	194	277	308	408	421	458	438	428
満24週～満27週 24-27 completed weeks	1 818	2 067	2 092	2 095	2 227	2 455	2 242	2 346	2 422	2 387
満28週～満31週 28-31 completed weeks	5 980	5 520	4 710	5 067	5 837	5 327	5 139	5 222	5 281	5 063
満32週～満35週 32-35 completed weeks	28 418	24 957	21 881	22 762	24 435	23 713	22 638	23 526	23 545	23 345
満36週～満39週 36-39 completed weeks	791 837	758 482	701 683	694 759	708 282	666 933	636 063	656 525	659 170	669 071
満40週以上 40 completed weeks and over	748 270	639 908	490 640	461 637	448 945	411 437	395 586	404 150	398 567	390 406
不詳 Not stated (再掲) (Regrouped)	427	418	359	455	508	443	437	434	386	447
早 期 Pre-term										
満37週未満 Under 37 completed weeks	64 889	59 795	55 231	58 293	64 006	62 936	60 377	62 318	63 113	62 819
満28週未満 Under 28 completed weeks	1 957	2 292	2 312	2 384	2 540	2 868	2 667	2 817	2 869	2 824
満28週～満31週 28-31 completed weeks	5 980	5 520	4 710	5 067	5 837	5 327	5 139	5 222	5 281	5 063
満32週～満36週 32-36 completed weeks	56 952	51 983	48 209	50 842	55 629	54 741	52 571	54 279	54 963	54 932
正 期 Term										
満37週～満41週 37-41 completed weeks	1 441 700	1 326 256	1 145 520	1 114 271	1 116 195	1 040 547	995 674	1 024 368	1 021 275	1 023 484
過 期 Post-term										
満42週以上 42 completed weeks and over	69 873	45 108	20 475	14 045	9 838	6 795	6 042	5 554	5 044	4 406
百 分 率 Percentage										
総数 Total	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
満22週未満 Under 22 completed weeks	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
満22週～満23週 22-23 completed weeks	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
満24週～満27週 24-27 completed weeks	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
満28週～満31週 28-31 completed weeks	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
満32週～満35週 32-35 completed weeks	1.8	1.7	1.8	1.9	2.1	2.1	2.1	2.2	2.2	2.1
満36週～満39週 36-39 completed weeks	50.2	53.0	57.5	58.5	59.5	60.1	59.9	60.1	60.5	61.3
満40週以上 40 completed weeks and over	47.5	44.7	40.2	38.9	37.7	37.1	37.2	37.0	36.6	35.8
(再掲) (Regrouped)										
早 期 Pre-term										
満37週未満 Under 37 completed weeks	4.1	4.2	4.5	4.9	5.4	5.7	5.7	5.7	5.8	5.8
満28週未満 Under 28 completed weeks	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
満28週～満31週 28-31 completed weeks	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
満32週～満36週 32-36 completed weeks	3.6	3.6	3.9	4.3	4.7	4.9	4.9	5.0	5.0	5.0
正 期 Term										
満37週～満41週 37-41 completed weeks	91.5	92.7	93.8	93.9	93.8	93.7	93.7	93.8	93.7	93.8
過 期 Post-term										
満42週以上 42 completed weeks and over	4.4	3.2	1.7	1.2	0.8	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4

注: 1) 妊娠期間不詳を除いた出生数に対する百分率である。

表 4.9 都道府県 (18大都市再掲) ・ 出生の場所別にみた出生数  
 Table 4.9 Live births by place of delivery : Japan,  
 each prefecture and 18 major cities, 2008

平成20年

都道府県 Prefecture	総数 Total	施設内 Hospitalized			施設外 Nonhosp.			
		総数 Total	病院 Hospital	診療所 Clinic	助産所 Maternity home	総数 Total	自宅 Home	その他 Others
全 国 Total	1 091 156	1 088 628	557 967	520 693	9 968	2 528	2 165	363
01 北海道	41 074	40 935	25 447	15 276	212	139	111	28
02 青森	10 187	10 178	4 375	5 728	75	9	9	-
03 岩手	10 223	10 204	6 142	4 058	4	19	10	9
04 宮城	19 863	19 843	10 012	9 724	107	20	18	2
05 秋田	7 421	7 415	5 476	1 938	1	6	4	2
06 山形	9 164	9 150	5 395	3 749	6	14	9	5
07 福島	16 908	16 875	7 996	8 830	49	33	28	5
08 茨城	24 592	24 534	13 826	10 481	227	58	44	14
09 栃木	17 240	17 216	6 211	10 954	51	24	17	7
10 群馬	17 044	17 029	8 130	8 872	27	15	9	6
11 埼玉県	60 520	60 366	31 413	28 398	555	154	141	13
12 千葉県	52 806	52 191	23 391	28 411	389	115	100	15
13 東京都	106 015	105 554	69 600	34 485	1 469	461	419	42
14 神奈川県	79 179	78 864	47 995	29 207	1 662	315	278	37
15 新潟	18 368	18 370	9 293	9 024	53	18	17	1
16 富山	8 709	8 691	4 573	4 116	2	18	17	1
17 石川	10 199	10 180	5 605	4 529	46	19	16	3
18 福井	7 139	7 135	3 432	3 601	102	4	3	1
19 山梨	6 908	6 889	4 255	2 586	48	19	15	4
20 長野	18 129	18 058	12 475	5 452	131	71	68	3
21 岐阜	17 506	17 474	6 406	10 975	93	32	27	5
22 静岡県	32 701	32 644	14 579	17 682	383	57	39	18
23 愛知県	71 029	70 918	30 653	39 594	671	111	97	14
24 三重	15 633	15 610	5 929	9 584	97	23	21	2
25 滋賀	13 487	13 461	5 142	8 243	76	26	23	3
26 京都府	21 842	21 814	12 608	9 041	165	28	21	7
27 大阪府	77 400	77 252	44 973	31 243	1 036	148	132	16
28 兵庫県	48 833	48 755	24 238	24 053	464	78	60	18
29 奈良	10 981	10 962	5 077	5 752	133	19	18	1
30 和歌山	7 866	7 852	4 053	3 635	164	14	12	2
31 鳥取	4 878	4 871	1 824	3 042	5	7	7	-
32 島根	5 685	5 680	3 524	2 150	6	5	4	1
33 岡山	17 044	17 023	8 517	8 117	389	21	19	2
34 広島	25 560	25 502	12 951	12 512	39	58	46	12
35 山口	11 560	11 530	5 192	6 279	59	30	26	4
36 徳島	5 893	5 889	2 834	3 051	4	4	4	-
37 香川県	8 600	8 575	6 028	2 409	138	25	25	-
38 愛媛	11 561	11 544	4 831	6 661	52	17	15	2
39 高松	5 788	5 772	2 977	2 770	25	16	13	3
40 福岡	46 695	46 611	14 512	31 850	249	84	71	13
41 佐賀	7 819	7 804	2 070	5 724	10	15	11	4
42 長門	12 173	12 151	3 802	8 336	13	22	19	3
43 熊本	16 462	16 429	6 270	10 147	12	33	29	4
44 大分	10 306	10 288	2 847	7 235	206	18	15	3
45 宮崎	10 292	10 277	4 002	6 146	129	15	12	3
46 鹿児島	15 445	15 422	7 848	7 483	91	23	17	6
47 沖縄	16 736	16 677	9 130	7 506	41	59	48	11
外 国	173	164	108	54	2	9	1	8
Foreign countries								
18 大都市 (再掲) 18 major cities (Regrouped)								
50 東京都	71 738	71 469	47 974	22 734	761	269	248	21
51 札幌	14 845	14 778	7 821	6 923	34	67	60	7
52 仙台	9 515	9 506	5 415	4 010	81	9	9	-
53 さいたま	10 920	10 908	5 877	4 947	84	12	11	1
54 千葉	8 142	8 125	2 955	5 091	79	17	17	-
55 横浜	32 250	32 127	20 739	10 765	623	123	107	16
56 新潟	14 399	14 345	8 713	5 156	476	54	46	8
57 静岡	6 554	6 548	2 767	3 744	37	6	6	-
58 浜松	5 739	5 728	3 061	2 522	145	11	11	-
59 名古屋	7 447	7 444	3 825	3 575	44	3	2	1
60 京都	20 455	20 404	9 413	10 707	284	51	45	6
61 大阪	11 789	11 777	6 980	4 694	103	12	9	3
62 神戸	23 290	23 237	14 490	8 477	270	53	50	3
63 横浜	7 765	7 750	4 436	3 231	83	15	14	1
64 神奈川	12 675	12 664	7 284	5 183	197	11	9	2
65 広島	11 315	11 280	6 109	5 155	16	35	31	4
66 北九州	8 539	8 531	2 795	5 695	41	8	6	2
67 福岡	14 063	14 043	4 279	9 717	47	20	16	4

母の年齢別にみた年次出生数

・百分率<sup>1)</sup>及び出生率(女性人口千対)  
 rates (per 1,000 females) by age of mother : Japan

1995 7年	2000 12年	2002 14年	2003 15年	2004 16年	2005 17年	2006 18年	2007 19年	2008 20年	母の年齢 Age of mother
数 Number									
1 187 064	1 190 547	1 153 855	1 123 610	1 110 721	1 062 530	1 092 674	1 089 818	1 091 156	総数 Total
37	43	52	49	45	42	41	39	38	～14歳 Years
16 075	19 729	21 349	19 532	18 546	16 531	15 933	15 211	15 427	15～19
193 514	161 361	152 493	142 068	136 486	128 135	130 230	126 180	124 691	20～24
492 714	470 833	425 817	395 975	370 220	339 328	335 771	324 041	317 753	25～29
371 773	396 901	406 482	408 585	415 903	404 700	417 776	412 611	404 771	30～34
100 053	126 409	131 040	139 489	150 222	153 440	170 775	186 568	200 328	35～39
12 472	14 848	16 200	17 478	18 790	19 750	21 608	24 553	27 522	40～44
414	396	396	402	483	564	522	590	594	45～49
-	6	10	19	16	34	9	19	24	50～
12	21	16	13	10	6	9	6	8	不詳 Not stated
率 Percentage									
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	総数 Total
1.4	1.7	1.9	1.7	1.7	1.6	1.5	1.4	1.4	～19歳 Years
16.3	13.6	13.2	12.6	12.3	12.1	11.9	11.6	11.4	20～24
41.5	39.5	36.9	35.2	33.3	31.9	30.7	29.7	29.1	25～29
31.3	33.3	35.2	36.4	37.4	38.1	38.2	37.9	37.1	30～34
8.4	10.6	11.4	12.4	13.5	14.4	15.6	17.1	18.4	35～39
1.1	1.2	1.4	1.6	1.7	1.9	2.0	2.3	2.5	40～44
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	45～
率(女性人口千対) Live birth rate (per 1,000 females)									
3.9	5.4	6.2	5.8	5.7	5.2	5.2	5.0	5.2	15～19歳 Years
40.4	39.9	40.1	38.2	37.4	36.6	37.6	37.0	37.4	20～24
116.1	99.5	93.8	90.7	88.5	85.3	87.8	87.5	88.0	25～29
94.5	93.5	88.6	87.1	87.5	85.6	89.9	91.5	93.7	30～34
26.2	32.1	32.7	33.9	35.7	36.1	38.1	40.9	43.1	35～39
2.8	3.9	4.2	4.6	4.9	5.0	5.6	6.2	6.7	40～44
0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	45～49

注： 1) 年齢不詳を除く出生数に対する百分率である。

第20表 身長・体重の平均値及び標準偏差(性・年齢階級別)

年齢(歳)	男 性						女 性					
	身 長 (cm)			体 重 (kg)			身 長 (cm)			体 重 (kg)		
	人 数	平均値	標準偏差	人 数	平均値	標準偏差	人 数	平均値	標準偏差	人 数	平均値	標準偏差
1	24	79.5	3.7	24	10.7	1.4	26	77.8	4.2	26	9.9	0.9
2	28	88.9	5.5	29	12.9	1.8	26	87.8	4.0	26	12.0	1.6
3	34	96.1	4.4	34	14.3	1.7	42	94.7	3.9	42	14.1	1.5
4	41	103.2	3.9	41	17.0	2.7	42	103.1	4.5	42	16.2	2.0
5	51	109.6	5.4	51	18.6	2.7	36	109.7	3.7	36	19.0	2.2
6	39	115.8	5.5	39	21.2	2.7	41	115.5	4.8	41	20.8	2.9
7	39	121.7	5.0	39	22.9	3.8	53	120.5	5.5	53	23.1	3.6
8	57	128.3	5.6	57	26.6	4.7	39	127.6	5.4	39	26.7	4.6
9	40	133.7	5.4	40	30.4	7.2	52	133.4	7.5	52	30.8	8.2
10	41	139.7	6.8	41	35.3	8.4	48	139.0	6.9	48	33.7	8.0
11	34	144.5	7.0	34	37.0	6.7	36	147.6	8.7	36	39.1	9.5
12	40	150.7	7.6	40	42.7	9.0	45	150.8	6.0	45	41.6	8.3
13	47	157.4	10.1	45	46.6	10.7	49	155.7	5.7	48	47.4	7.2
14	33	163.8	6.9	33	53.9	11.3	37	156.5	4.5	36	50.2	8.3
15	41	168.0	6.7	41	58.0	10.2	41	159.1	4.9	41	50.1	6.6
16	33	168.7	5.8	32	59.9	8.6	41	157.3	5.6	40	52.1	6.7
17	38	171.1	5.0	38	61.9	9.2	33	157.5	4.3	32	50.4	5.8
18	31	170.7	4.4	31	64.0	12.2	23	157.8	4.8	22	51.3	6.5
19	30	171.5	5.7	29	62.5	8.7	27	159.0	5.0	27	53.0	7.0
20	25	173.3	5.1	25	63.2	8.6	17	156.5	4.4	17	49.0	10.1
21	25	170.9	6.9	25	61.8	8.7	32	158.5	4.3	32	51.4	7.4
22	21	172.4	5.6	20	63.5	12.3	29	157.6	5.8	29	50.6	8.0
23	23	173.4	7.2	21	69.0	11.9	29	157.7	5.9	29	50.7	8.7
24	23	172.5	7.4	23	70.1	12.6	30	157.7	6.6	29	50.4	7.9
25	29	172.6	5.6	29	69.6	17.4	30	157.6	4.9	29	50.1	5.6
26-29	92	170.5	6.9	92	64.8	8.7	136	158.1	4.8	125	50.9	7.5
30-39	453	171.4	5.9	448	70.0	12.7	603	158.0	5.6	584	53.0	8.3
40-49	467	170.3	5.7	466	69.5	10.3	534	157.5	5.6	533	54.3	9.1
50-59	537	167.8	5.5	536	67.1	10.2	646	154.5	5.3	646	54.8	8.4
60-69	620	164.6	5.6	620	64.5	8.8	724	151.9	5.5	724	53.7	8.7
70歳以上	625	160.7	6.6	625	60.3	10.7	782	147.4	6.0	790	49.8	8.8
(再掲)												
20歳以上	2940	166.9	7.2	2930	65.8	11.1	3592	153.8	6.9	3567	52.7	8.8
20-29歳	238	171.7	6.6	235	65.7	11.3	303	157.9	5.1	290	50.6	7.7
60-64	330	165.1	5.7	330	64.4	9.3	374	152.3	5.6	374	53.5	8.8
65-69	290	164.1	5.4	290	64.5	8.1	350	151.4	5.3	350	53.9	8.7
70-74	262	162.3	6.5	262	62.7	9.4	286	150.1	5.1	286	51.8	8.1
75-79	208	160.4	6.1	208	59.9	12.1	248	146.9	5.7	249	50.2	8.2
80歳以上	155	158.4	6.6	155	56.8	9.6	248	144.9	6.1	255	47.1	9.3

注) 体重は妊婦除外

第23表 BMIの状況(性・年齢階級別)

性別	総数	肥満区分							
		総数		やせ		普通		肥満	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
性別	総数	3101	100.0	155	5.0	2037	65.7	909	29.3
男性	15-19歳	171	100.0	32	18.7	121	70.8	18	10.5
	20-29歳	235	100.0	25	10.6	160	68.1	50	21.3
	30-39歳	448	100.0	9	2.0	311	69.4	128	28.6
	40-49歳	466	100.0	12	2.6	300	64.4	154	33.0
	50-59歳	536	100.0	23	4.3	329	61.4	184	34.3
	60-69歳	620	100.0	13	2.1	404	65.2	203	32.7
	70歳以上	625	100.0	41	6.6	412	65.9	172	27.5
	(再掲)20歳以上	2930	100.0	123	4.2	1916	65.4	891	30.4
	(再掲)20-69歳	2305	100.0	82	3.6	1504	65.2	719	31.2
	(再掲)40-69歳	1622	100.0	48	3.0	1033	63.7	541	33.4
	(再掲)65-69歳	290	100.0	5	1.7	179	61.7	106	36.6
	(再掲)70-74歳	262	100.0	8	3.1	171	65.3	83	31.7
	(再掲)75-79歳	208	100.0	15	7.2	138	66.3	55	26.4
	(再掲)80-84歳	105	100.0	11	10.5	71	67.6	23	21.9
(再掲)85歳以上	50	100.0	7	14.0	32	64.0	11	22.0	
女性	総数	3720	100.0	408	11.0	2588	69.6	724	19.5
女性	15-19歳	162	100.0	27	16.7	129	79.6	6	3.7
	20-29歳	290	100.0	73	25.2	200	69.0	17	5.9
	30-39歳	584	100.0	82	14.0	437	74.8	65	11.1
	40-49歳	533	100.0	61	11.4	385	72.2	87	16.3
	50-59歳	646	100.0	29	4.5	480	74.3	137	21.2
	60-69歳	723	100.0	45	6.2	465	64.3	213	29.5
	70歳以上	782	100.0	91	11.6	492	62.9	199	25.4
	(再掲)20歳以上	3558	100.0	381	10.7	2459	69.1	718	20.2
	(再掲)20-69歳	2776	100.0	290	10.4	1967	70.9	519	18.7
	(再掲)40-69歳	1902	100.0	135	7.1	1330	69.9	437	23.0
	(再掲)65-69歳	349	100.0	22	6.3	212	60.7	115	33.0
	(再掲)70-74歳	286	100.0	22	7.7	186	65.0	78	27.3
	(再掲)75-79歳	248	100.0	28	11.3	147	59.3	73	29.4
	(再掲)80-84歳	153	100.0	19	12.4	98	64.1	36	23.5
(再掲)85歳以上	95	100.0	22	23.2	61	64.2	12	12.6	

注) 妊婦除外 BMIによる肥満の判定は下記参照

平成19年国民健康・栄養調査報告

5. 肥満の判定

BMI( Body Mass Index, 次式) を用いて判定した。

$$BMI = \text{体重 kg} / \text{身長 m}^2$$

男女とも20歳以上 BMI=22を標準とし、肥満の判定基準は下記のとおりである。

判定	低体重(やせ)	普通	肥満
BMI	18.5未満	18.5以上25.0未満	25.0以上

(日本肥満学会(2000年)による肥満の判定基準)より)

平成19年国民健康・栄養調査報告より抜粋

第94表 喫煙の状況(性・年齢階級別)

区 分	回 答	年 齢 ( 歳 )													
		総 数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
性 別 男 性	喫煙の状況														
	現在習慣的に喫煙している者	1390	39.4	154	47.5	317	55.6	282	49.1	276	42.3	229	32.8	132	18.6
	過去習慣的に喫煙していた者	800	22.7	15	4.6	64	11.2	125	21.8	170	26.1	209	29.9	217	30.6
	喫煙しない者	1337	37.9	155	47.8	189	33.2	167	29.1	206	31.6	261	37.3	359	50.7
	総 数	3527	100	324	100	570	100	574	100	652	100	699	100	708	100
女 性	喫煙の状況														
	現在習慣的に喫煙している者	457	11.0	66	16.7	119	17.2	112	17.9	69	9.3	58	7.3	33	3.7
	過去習慣的に喫煙していた者	212	5.1	22	5.6	79	11.4	38	6.1	29	3.9	19	2.4	25	2.8
	喫煙しない者	3472	83.8	308	77.8	494	71.4	475	76.0	646	86.8	718	90.3	831	93.5
	総 数	4141	100	396	100	692	100	625	100	744	100	795	100	889	100
総 数	喫煙の状況														
	現在習慣的に喫煙している者	1847	24.1	220	30.6	436	34.5	394	32.9	345	24.7	287	19.2	165	10.3
	過去習慣的に喫煙していた者	1012	13.2	37	5.1	143	11.3	163	13.6	199	14.3	228	15.3	242	15.2
	喫煙しない者	4809	62.7	463	64.3	683	54.1	642	53.5	852	61.0	979	65.5	1190	74.5
	総 数	7668	100	720	100	1262	100	1199	100	1396	100	1494	100	1597	100

現在習慣的に喫煙している者：  
 これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間に毎日又はときどきたばこを吸っている」と回答した者  
 過去習慣的に喫煙していた者：  
 これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者  
 喫煙しない者：  
 「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者

平成19年国民健康・栄養調査報告

第90表 飲酒習慣の状況(性・年齢階級別)

区 分	回 答	年 齢 ( 歳 )													
		総 数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
性 別 男 性	なし	2238	63.4	272	84.0	364	63.9	292	50.8	357	54.5	414	50.2	530	76.0
	あり	1294	36.5	52	16.0	206	36.1	283	49.2	298	45.5	285	40.8	179	24.0
	総 数	3532	100	324	100	570	100	575	100	655	100	699	100	709	100
女 性	なし	3811	92.1	370	93.7	601	86.8	527	84.3	684	91.9	748	94.1	881	99.1
	あり	329	7.9	25	6.3	91	13.2	96	15.7	60	8.1	47	5.9	8	0.9
	総 数	4140	100	395	100	692	100	625	100	744	100	795	100	889	100
総 数	なし	6049	78.8	642	89.3	965	76.5	819	68.3	1041	74.4	1162	77.8	1420	88.9
	あり	1623	21.2	77	10.7	297	23.5	381	31.8	358	25.6	332	22.2	178	11.1
	総 数	7672	100	719	100	1262	100	1200	100	1399	100	1494	100	1598	100

注) 週3日以上で1日1合以上飲酒する者ありとした

平成19年国民健康・栄養調査報告

(出産順位及び出生順位別にみた出生)  
 (Live births by birth order and live birth order)

表 4.11 出産順位<sup>1)</sup>別にみた年次別出生数及び百分率<sup>2)</sup>

Table 4.11 Trends in live births and percent distribution by birth order : Japan

年次		総数	第1児	第2児	第3児	第4児	第5児~	不詳
Year		Total	1st	2nd	3rd	4th	5th and over	Not stated
実数 Number								
1947	昭和22年	2 678 792	765 860	542 269	407 944	305 521	655 881	1 317
55	30	1 730 692	562 317	453 186	331 381	198 287	185 510	11
60	35	1 606 041	699 840	523 126	227 263	84 219	71 576	17
65	40	1 823 697	851 081	683 294	213 248	49 555	26 470	49
70	45	1 934 239	866 014	751 665	253 369	45 456	17 735	-
75	50	1 901 440	851 709	765 763	231 562	37 976	14 430	-
80	55	1 576 889	660 681	639 491	232 710	33 529	10 478	-
85	60	1 431 577	596 902	560 763	228 518	35 463	9 931	-
90	平成2年	1 221 585	528 140	457 890	195 032	32 511	8 012	-
95	7	1 187 064	564 964	427 086	158 440	28 917	7 657	-
96	8	1 206 555	571 508	443 430	156 177	27 853	7 587	-
97	9	1 191 665	569 222	436 083	151 822	27 118	7 420	-
98	10	1 203 147	581 278	438 399	149 706	26 472	7 292	-
99	11	1 177 669	576 903	426 383	142 330	24 810	7 243	-
2000	12	1 190 547	580 932	433 935	142 656	25 766	7 258	-
01	13	1 170 662	571 866	427 184	139 297	25 146	7 169	-
02	14	1 153 855	569 468	420 221	133 060	23 993	7 113	-
03	15	1 123 610	545 227	418 310	129 396	23 586	7 091	-
04	16	1 110 721	536 062	416 777	127 461	23 388	7 033	-
05	17	1 062 530	510 576	398 588	123 836	22 653	6 877	-
06	18	1 092 674	522 793	407 784	130 796	24 030	7 271	-
07	19	1 089 818	518 091	402 854	136 173	25 043	7 657	-
08	20	1 091 156	516 097	401 386	139 094	26 617	7 962	-
百分率 Percentage								
1947	昭和22年	100.0	28.6	20.3	15.2	11.4	24.5	.
55	30	100.0	32.5	26.2	19.1	11.5	10.7	.
60	35	100.0	43.6	32.6	14.2	5.2	4.5	.
65	40	100.0	46.7	37.5	11.7	2.7	1.5	.
70	45	100.0	44.8	38.9	13.1	2.4	0.9	.
75	50	100.0	44.8	40.3	12.2	2.0	0.8	.
80	55	100.0	41.9	40.6	14.8	2.1	0.7	.
85	60	100.0	41.7	39.2	16.0	2.5	0.7	.
90	平成2年	100.0	43.2	37.5	16.0	2.7	0.7	.
95	7	100.0	47.6	36.0	13.3	2.4	0.6	.
96	8	100.0	47.4	36.8	12.9	2.3	0.6	.
97	9	100.0	47.8	36.6	12.7	2.3	0.6	.
98	10	100.0	48.3	36.4	12.4	2.2	0.6	.
99	11	100.0	49.0	36.2	12.1	2.1	0.6	.
2000	12	100.0	48.8	36.4	12.0	2.2	0.6	.
01	13	100.0	48.8	36.5	11.9	2.1	0.6	.
02	14	100.0	49.4	36.4	11.5	2.1	0.6	.
03	15	100.0	48.5	37.2	11.5	2.1	0.6	.
04	16	100.0	48.3	37.5	11.5	2.1	0.6	.
05	17	100.0	48.1	37.5	11.7	2.1	0.6	.
06	18	100.0	47.8	37.3	12.0	2.2	0.7	.
07	19	100.0	47.5	37.0	12.5	2.3	0.7	.
08	20	100.0	47.3	36.8	12.7	2.4	0.7	.

注：1) 出産順位とは、同じ母親がこれまでに出生した児の総数(平成6年までは妊娠満20週以後、平成7年から妊娠満22週以後の死産胎を含む。)について数えた順序である。  
 2) 各年次における順位不詳を除いた出生数に対する百分率である。

表 4.37 都道府県別にみた単産-複産（複産の種類）別分娩件数  
 Table 4.37 Deliveries by plurality of birth (type of plurality) : Japan, each prefecture, 2008

平成20年

都道府県 Prefecture	単産-複産別分娩件数 Deliveries by plurality						
	総数 <sup>2)</sup> Total	単産 Single delivery	複産 Plural deliveries	複産の種類 Type of plurality			
				双子 Twins	三つ児 Triplets	四つ児 Quadruplets	五つ児 Quintuplets
全国 Total	1 107 467	1 095 749	11 684	11 496	181	6	1
01 北海道	42 125	41 768	355	349	6	-	-
02 青森	10 359	10 241	118	118	-	-	-
03 岩手	10 401	10 302	99	98	-	1	-
04 宮城	20 239	20 044	194	191	3	-	-
05 秋田	7 555	7 481	74	73	1	-	-
06 山形	9 283	9 177	105	102	3	-	-
07 福島	17 224	17 063	161	160	1	-	-
08 茨城	25 026	24 771	255	253	2	-	-
09 栃木	17 520	17 338	180	176	4	-	-
10 群馬	17 251	17 032	219	217	2	-	-
11 埼玉県	61 312	60 659	650	642	7	1	-
12 千葉県	53 097	52 579	516	511	5	-	-
13 東京都	107 574	106 416	1 157	1 148	8	1	-
14 神奈川県	80 082	79 298	780	767	13	-	-
15 新潟県	18 653	18 418	235	233	2	-	-
16 富山県	8 822	8 732	90	87	3	-	-
17 石川県	10 321	10 213	108	106	2	-	-
18 福井県	7 239	7 160	79	78	1	-	-
19 山梨県	6 986	6 916	70	66	4	-	-
20 長野県	18 339	18 140	198	192	6	-	-
21 岐阜県	17 680	17 476	204	197	4	3	-
22 静岡県	33 149	32 816	332	323	9	-	-
23 愛知県	71 824	71 008	815	808	7	-	-
24 三重県	15 831	15 683	148	145	3	-	-
25 滋賀県	13 629	13 457	172	172	-	-	-
26 東京都	22 057	21 768	288	284	4	-	-
27 大阪府	78 393	77 549	842	826	15	-	1
28 兵庫県	49 392	48 814	576	568	8	-	-
29 奈良県	11 099	10 934	165	162	3	-	-
30 和歌山県	7 989	7 892	97	94	3	-	-
31 鳥取県	4 960	4 917	43	42	1	-	-
32 島根県	5 783	5 723	56	53	3	-	-
33 岡山県	17 302	17 135	167	166	1	-	-
34 広島県	25 905	25 638	267	261	6	-	-
35 山口県	11 734	11 618	116	112	4	-	-
36 徳島県	5 989	5 924	65	62	3	-	-
37 香川県	8 677	8 564	113	110	3	-	-
38 愛媛県	11 796	11 691	104	102	2	-	-
39 高知県	5 917	5 851	66	64	2	-	-
40 福岡県	47 592	47 071	520	513	7	-	-
41 佐賀県	7 953	7 888	65	64	1	-	-
42 長門県	12 427	12 306	121	120	1	-	-
43 熊本市	16 785	16 610	175	170	5	-	-
44 大分県	10 493	10 374	119	119	-	-	-
45 宮崎県	10 516	10 419	97	92	5	-	-
46 鹿児島県	15 816	15 663	153	147	6	-	-
47 沖縄県	17 179	17 029	150	148	2	-	-
外 国	178	173	5	5	-	-	-
不詳 Place of residence not stated	14	10	-	-	-	-	-

注：1) 分娩件数とは出産（出生及び死産）をした母の数である。  
 2) 総数には死産の単産・複産の別不詳を含む。

表25 分娩件数の年次推移

各年9月中

	一般病院			一般診療所		
	分娩件数	帝王切開 娩出術 件数 (再掲)	分娩に 占める 割合 (%)	分娩件数	帝王切開 娩出術 件数 (再掲)	分娩に 占める 割合 (%)
昭和62年(1987)	59 939	5 933	9.9	45 040	2 948	6.5
平成2年('90)	53 497	5 981	11.2	35 233	2 919	8.3
5 ('93)	54 065	7 486	13.8	40 347	3 687	9.1
8 ('96)	52 976	7 791	14.7	43 034	4 270	9.9
11 ('99)	50 959	8 852	17.4	40 097	4 571	11.4
14 (2002)	49 629	8 900	17.9	41 498	4 938	11.9
17 ('05)	44 865	9 623	21.4	40 247	5 156	12.8
20 ('08)	47 626	11 089	23.3	42 792	5 553	13.0

平成20年医療施設(静態・動態)調査・病院報告



年次別にみた出生数

・率（人口千対）・出生性比及び合計特殊出生率

live birth rates (per 1,000 population), total fertility rates  
births : Japan

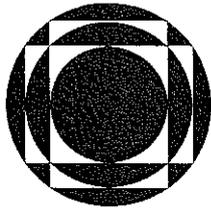
年次 <sup>1)</sup> Year	出生数 Live births			出生率 (人口千対) Live birth rate (per 1,000 population)	出生性比 Sex ratio of live births	合計特殊 出生率 <sup>3)</sup> Total fertility rate	
	総数 Total	男 Male	女 Female				
1955	昭和30年	1 730 692	889 670	841 022	19.4	105.8	2.37
56	31	1 665 278	856 084	809 194	18.4	105.8	2.22
57	32	1 566 713	805 220	761 493	17.2	105.7	2.04
58	33	1 653 469	848 733	804 736	18.0	105.5	2.11
59	34	1 626 088	835 822	790 266	17.5	105.8	2.04
1960	35	1 606 041	824 761	781 280	17.2	105.6	2.00
61	36	1 589 372	817 599	771 773	16.9	105.9	1.96
62	37	1 618 616	833 269	785 347	17.0	106.1	1.98
63	38	1 659 521	852 561	806 960	17.3	105.7	2.00
64	39	1 716 761	882 924	833 837	17.7	105.9	2.05
65	40	1 823 697	935 366	888 331	18.6	105.3	2.14
66	41	1 360 974	705 463	655 511	13.7	107.6	1.58
67	42	1 935 647	992 778	942 869	19.4	105.3	2.23
68	43	1 871 839	967 996	903 843	18.6	107.1	2.13
69	44	1 889 815	977 687	912 128	18.5	107.2	2.13
1970	45	1 934 239	1 000 403	933 836	18.8	107.1	2.13
71	46	2 000 973	1 032 937	968 036	19.2	106.7	2.16
72	47	2 038 682	1 051 389	987 293	19.3	106.5	2.14
73	48	2 091 983	1 077 517	1 014 466	19.4	106.2	2.14
74	49	2 029 989	1 046 538	983 451	18.6	106.4	2.05
75	50	1 901 440	979 091	922 349	17.1	106.2	1.91
76	51	1 832 617	943 829	888 788	16.3	106.2	1.85
77	52	1 755 100	903 380	851 720	15.5	106.1	1.80
78	53	1 708 643	879 149	829 494	14.9	106.0	1.79
79	54	1 642 580	845 884	796 696	14.2	106.2	1.77
1980	55	1 576 889	811 418	765 471	13.6	106.0	1.75
81	56	1 529 455	786 596	742 859	13.0	105.9	1.74
82	57	1 515 392	777 855	737 537	12.8	105.5	1.77
83	58	1 508 687	775 206	733 481	12.7	105.7	1.80
84	59	1 489 780	764 597	725 183	12.5	105.4	1.81
85	60	1 431 577	735 284	696 293	11.9	105.6	1.76
86	61	1 382 946	711 301	671 645	11.4	105.9	1.72
87	62	1 346 658	692 304	654 354	11.1	105.8	1.69
88	63	1 314 006	674 883	639 123	10.8	105.6	1.66
89	平成元年	1 246 802	640 506	606 296	10.2	105.6	1.57
1990	2	1 221 585	626 971	594 614	10.0	105.4	1.54
91	3	1 223 245	628 615	594 630	9.9	105.7	1.53
92	4	1 208 989	622 136	586 853	9.8	106.0	1.50
93	5	1 188 282	610 244	578 038	9.6	105.6	1.46
94	6	1 238 328	635 915	602 413	10.0	105.6	1.50
95	7	1 187 064	608 547	578 517	9.6	105.2	1.42
96	8	1 206 555	619 793	586 762	9.7	105.6	1.43
97	9	1 191 665	610 905	580 760	9.5	105.2	1.39
98	10	1 203 147	617 414	585 733	9.6	105.4	1.38
99	11	1 177 669	604 769	572 900	9.4	105.6	1.34
2000	12	1 190 547	612 148	578 399	9.5	105.8	1.36
01	13	1 170 662	600 918	569 744	9.3	105.5	1.33
02	14	1 153 855	592 840	561 015	9.2	105.7	1.32
03	15	1 123 610	576 736	546 874	8.9	105.5	1.29
04	16	1 110 721	569 559	541 162	8.8	105.2	1.29
05	17	1 062 530	545 032	517 498	8.4	105.3	1.26
06	18	1 092 674	560 439	532 235	8.7	105.3	1.32
07	19	1 089 818	559 847	529 971	8.6	105.6	1.34
08	20	1 091 156	559 513	531 643	8.7	105.2	1.37

注：1) 昭和19～21年は資料不足のため省略した。昭和22～47年は沖縄県を含まない。  
2) 昭和元年・5年・10年の出生数の総数には、男女不詳が各1含まれている。  
3) 率算出に用いた分母人口は日本人人口である。

ACTA OBSTETRICA ET GYNAECOLOGICA JAPONICA

# 日本産科婦人科学会雑誌

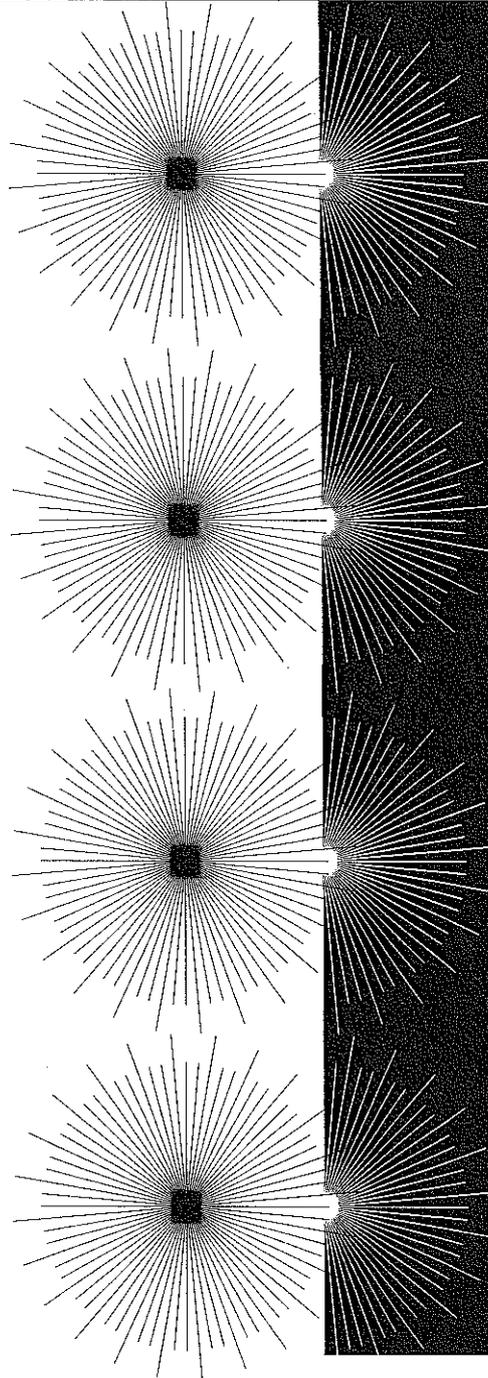
Vol. 62  
No. 8  
August  
2010



第63回学術講演会予告  
委員会提案：

ICMART Glossary翻訳(案)  
総会記事

社団法人 日本産科婦人科学会  
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY



## 周産期委員会

委員長 齋 藤 滋

### 常置委員会

1. 周産期登録事業

小委員長：佐藤昌司

委員：塩崎有宏，住本和博，竹田善治，藤森敬也，宮下 進，室月 淳

2. 周産期における未承認薬の承認にむけての活動

小委員長：竹田 省

委員：伊藤宏晃，海野信也，久保隆彦，小林隆夫，齋藤 滋，平松祐司，松田秀雄

3. 胎児機能不全診断基準とその妥当性の検討委員会

小委員長：池田智明

委員：岡井 崇，上妻志郎，鮫島 浩，千坂 泰，松岡 隆，米田 哲

### 小委員会

1. 早産のリスク因子の解明と具体的な予防法確立に関する小委員会

小委員長：齋藤 滋

委員：伊藤宏晃，大槻克文，金山尚裕，塩崎有宏，竹田 省，秦 利之，増崎英明

2. 周産期救急医療体制の構築とその対応に関する小委員会

小委員長：海野信也

委員：池田智明，岡井 崇，川端正清，久保隆彦，小林隆夫，中林正雄

3. 新しい妊婦健診体制に関する小委員会

小委員長：松田義雄

委員：上妻志郎，佐藤昌司，鮫島 浩，千坂 泰，中井章人，平松祐司，水上尚典，松原茂樹

## 常置委員会

## 1. 周産期登録事業

佐藤昌司<sup>1)</sup>, 塩崎有宏<sup>2)</sup>, 住本和博<sup>3)</sup>,  
竹田善治<sup>4)</sup>, 藤森敬也<sup>5)</sup>, 宮下 進<sup>6)</sup>,  
室月 淳<sup>7)</sup>

[<sup>1)</sup>委員長, <sup>2)</sup>委員]

## 周産期統計(2008年)

## 1. 調査対象と方法

対象は登録に参加した118施設(2007年:117施設)において, 2008年に出生した妊娠22週以降の70,082例である。調査項目は調査票の産科入力画面の記入項目である。調査票はファイルメーカー Pro を用い, 各施設で直接入力いただいた。さらに, 妊婦氏名, ID, 住所, 電話番号等の個人情報に削除されるようにプログラムして回収した。未入力あるいは誤入力は専門委員によって精度チェックし修正したものをデータベースとした。本データベースは個人情報が削除された分娩個票が統計解析に寄与できる状態で保管されており, 日本産科婦人科学会の会員であれば研究目的を明らかにし, 周産期委員会委員長に申し込めばこのデータを使用できる。

調査結果は周産期委員会で回収, 分析し, その結果は平成21年1月29日開催の周産期委員会で承認され

た。

## 2. 登録施設

登録施設合計118施設, 施設区分内訳は大学病院71, 国立病院(機構)10, 赤十字病院9, その他の病院28であった。

## 3. 周産期登録成績

## 1) 主要全体統計(表1)

出生数70,082, 22週以降の死産数612, 生産数69,470, 早期新生児死亡数216であった。周産期死亡数は828であった。本統計の出生数70,082は同期間における我が国全体の出生数(妊娠22週以降)1,094,907の6.4%であるが, 本統計における周産期死亡数は我が国全体同期間の周産期死亡数4,720の17.5%となる。このように死亡が集積する原因は例年同様, 参加施設が周産期医療の2次・3次センターであるためと考えられた。

## 2) 母体搬送の集計

有効回答数(記載なし・無効入力を除く)70,082中, 母体搬送は10,821件であり, うち緊急搬送は5,053(有効回答の7.2%)であった。

## 3) 妊娠回数と分娩回数

妊娠回数に関する有効回答数69,772中, 初妊は26,381(37.8%), また, 分娩回数に関する有効回答数69,953中, 初産は36,978(52.9%)であった。

表1 全体統計(2008年)

	全体	~499g	500~999g	1,000g以上	体重不明・記載なし	22~27週	28週以降	週数不明・記載なし
(a) 出生数*	70,082	355	1,223	68,500	4	1,253	68,769	60
(b) 生産数	69,470	196	1,088	68,182	4	1,038	68,377	55
(c) 死産数(22週以降)	612	159	135	318	0	215	392	5
(d) 死産率	8.7	447.9	110.4	4.6	0.0	171.6	5.7	83.3
(e) 早期新生児死亡数	216	28	59	129	0	86	129	1
(f) 早期新生児死亡率	3.1	142.9	54.2	1.9	0.0	82.9	1.9	18.2
(g) 周産期死亡数	828	187	194	447	0	301	521	6
(h) 周産期死亡比	11.9	954.1	178.3	6.6	0.0	290.0	7.6	109.1
(i) 周産期死亡率	11.8	526.8	158.6	6.5	0.0	240.2	7.6	100.0
(j) 後期新生児死亡数	38	2	7	29	0	10	28	0
(k) その他時期死亡数	29	8	9	12	0	15	13	1
(L) 剖検数	96	14	22	60	0	37	58	1
(m) 剖検率	10.7	7.1	10.5	12.3	0.0	11.9	10.3	14.3

死産率 (d) = (c)/(a) × 1,000

早期新生児死亡率 (f) = (e)/(b) × 1,000

周産期死亡数 (g) = (c) + (e)

周産期死亡比 (h) = (g)/(b) × 1,000

周産期死亡率 (i) = (g)/(a) × 1,000

剖検率 (m) = (L)/(g+j+k) × 100

\* : 明らかな誤入力および不良データを除いた採用データを出産数とし, 他の統計値もこの母集団を基に算出した。

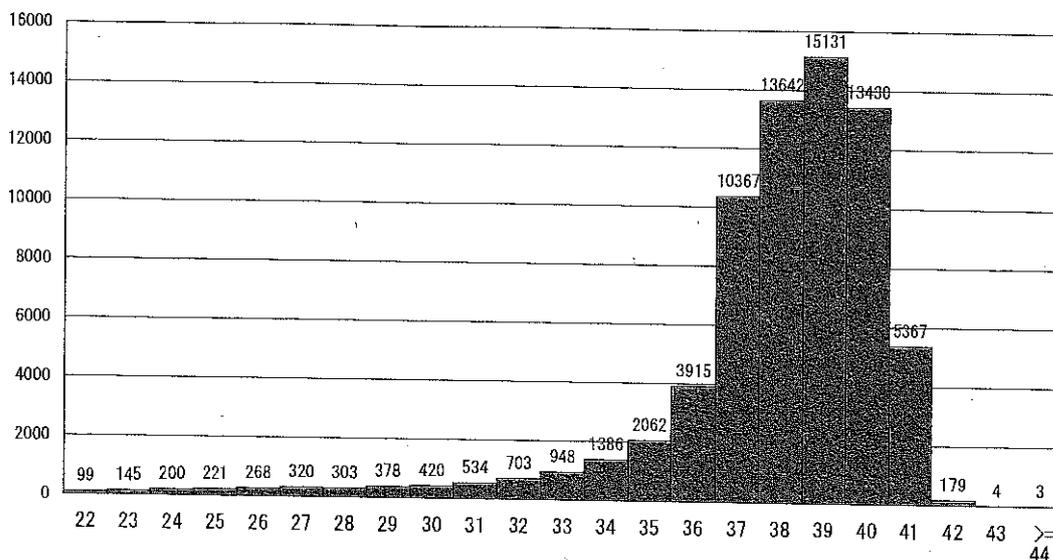


図1 分娩週数の分布

## 4) 分娩時母体年齢

有効回答数70,068中, 14歳以下: 5, 15~19歳: 776, 20~24歳: 5,704, 25~29歳: 16,504, 30~34歳: 25,724, 35~39歳: 17,611, 40~44歳: 3,578, 45~49歳: 137, 50歳以上: 29であった。

## 5) 不妊治療

有効回答数70,082中, 6,804(9.7%)が不妊治療による妊娠であった。排卵誘発が1,951, 体外受精3,232, AIH 1,296, その他867(重複回答あり)であった。

## 6) 分娩胎位

有効回答数70,081中, 頭位64,532(92.1%), 骨盤位4,606(6.6%), その他943(1.3%)であった。

## 7) 分娩方法

有効回答数70,081中, 自然経膣分娩42,393, 吸引分娩3,373, 鉗子分娩774, 予定帝王切開12,512, 緊急帝王切開10,801であった。

## 8) 帝王切開率

全体の帝王切開率(予定+緊急)は33.3%であった。

## 9) 分娩週数

有効回答数70,025中の分娩週数を図1にヒストグラムで示す。

## 10) 出産体重

有効回答数70,040中の出産体重別分娩数を図2に示す。

## 11) 性別

有効回答数70,082中, 男: 35,982, 女: 33,953, 不詳

147であった。

## 12) 分娩時出血量

有効回答数69,208中, 分娩時出血量は0~499g: 37,161, 500~999g: 20,061, 1,000~1,499g: 7,184, 1,500~1,999g: 2,676, 2,000~2,499g: 1,035, 2,500~2,999g: 490, 3,000g以上: 601であった。1,000g以上の出血は全体の17.3%, 1,500g以上の出血は6.9%, 2,000g以上は3.1%, 3,000g以上は0.9%であった。

## 13) 誘発促進分娩の有無

有効回答数70,082中, 誘発促進分娩は15,770件(22.5%)であった。

## 14) 分娩時CTG異常の有無と異常の種類

有効回答数70,081中, 異常ありは15,873(22.6%)であった。CTG異常の種類は, 早発一過性徐脈: 2,641, 軽度変動一過性徐脈: 6,942, 基線細変動の消失: 436, 持続性頻脈: 312, 遅発一過性徐脈: 1,784, 高度変動一過性徐脈: 3,960, 遷延性徐脈: 1,502(重複あり), その他の異常所見1,137であった。

## 15) 母体疾患

有効回答数70,080中, 母体疾患は19,974例(28.5%)に合併した。

## 16) 妊娠合併症

有効回答数69,692中, 妊娠合併症ありは39,042例(56.0%)であった。

## 17) 母体死亡

母体死亡は9例であった。死亡原因は, くも膜下出

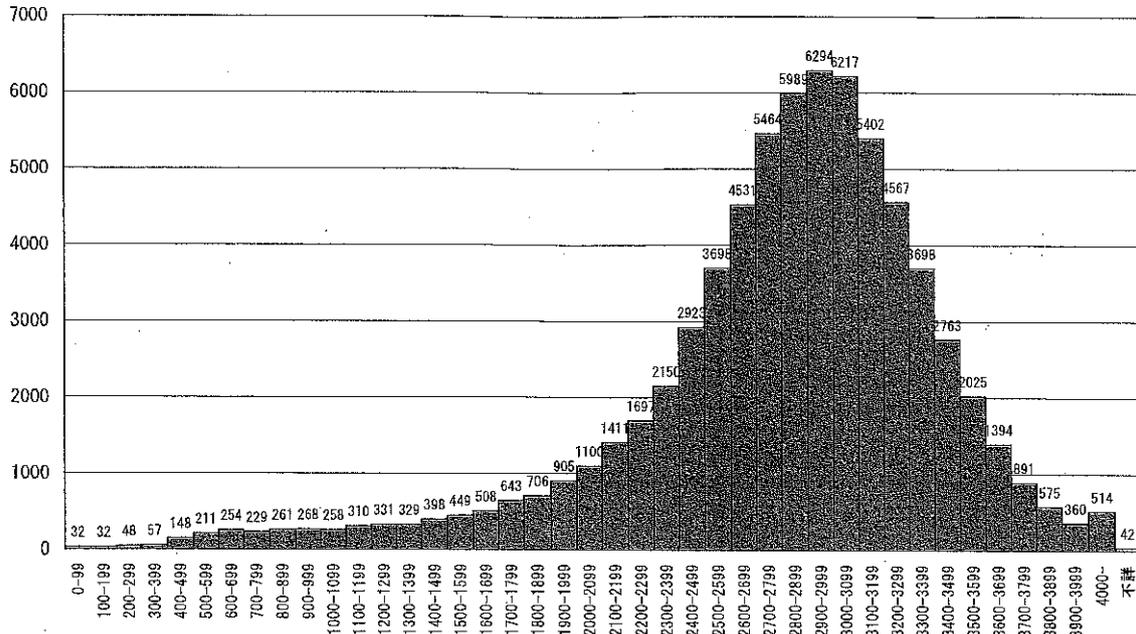


図2 出産体重の分布

血, DIC が各々2例, 妊娠高血圧症候群(子癇), 気道閉塞, 羊水塞栓, 脳出血, 敗血症が各々1例であった。

#### 18) 単胎・多胎

有効回答数70,082(出産児数)中, 単胎64,576例, 双胎5,352例(2,676組), 品胎150例(50組), 要胎4例(1組)であった。

#### 4. 周産期死亡統計

##### 1) 主要臨床死因別統計

周産期死亡の主要臨床死因別統計は, 妊娠高血圧症候群, 母体疾患, 前置胎盤, 常位胎盤早期剝離, その他の胎盤異常, 臍帯の異常, 胎位・胎勢・回旋の異常, 以上に含まれない新生児呼吸障害, 以上に含まれない胎児・新生児低酸素症, 以上に含まれない胎児・新生児損傷, 以上に含まれない低出産体重, 奇形, 胎児・新生児の溶血性疾患, 周産期の感染, 多胎妊娠・双胎間輸血症候群, 非免疫性胎児水腫, その他(不明を含む)の17死因とした。以上の主要死因別に死因別死亡数, 全死亡数に対する割合, 死産数, 早期新生児死亡数, 出生体重別死亡数(～499g, 500～999g, 1,000g以上), 分娩週数別死亡数(22～27週, 28週以降)を表2に示した。

##### 2) 登録施設別周産期統計

118登録施設ごとの出産数, 死産数, 生産数, 早期新

生児死亡数, 死産率, 早期新生児死亡率, 周産期死亡数, 周産期死亡比, 周産期死亡率, 剖検数, 剖検率を検討した。

##### 5. 周産期登録の現状

全出産登録方式によるデータベース集計を開始して7年目となる。例年, 登録出産数は本邦における全出産数の5～6%, 周産期死亡数は本邦の全周産期死亡数の15～20%と, 本登録が高次病院におけるハイリスク妊娠分娩例を多く包含した母集団となっている。

本データベースは日本産科婦人科学会の会員で本事業に登録している施設の構成員であれば, 周産期委員会委員長に学術目的に使用する旨申し出て許可を得ることにより使用することができる。2001～2008年の間に臨床研究への利用を目的とした蓄積データの利用申請が計37件寄せられ, 許可が得られている。本邦において高次周産期施設の全分娩に関する周産期情報が蓄積されているデータベースは他に無いものであり, 今後も引き続き多方面からの解析研究やデータの引用を期待するとともに, 発表・投稿業績を委員会に報告していただくことで本データベースの医学的・社会的意義を高めていただけるよう期待する。一方で, 全出産登録の宿命として, 分娩数あるいはハイリスク妊娠の集中する高次医療施設ほど煩雑な入力作業となる。本

表2 主要臨床死因別統計

主要臨床死因	死因別 死亡数	%	死産数	早期 新生児 死亡数	後期 新生児 死亡数	新生児 期以降 死亡数	~499g	500~ 999g	1,000g 以上	22~ 27週	28週 以降	週数不明・ 記載なし
(1) 妊娠高血圧症候群	4	0.4%	3	1	0	0	2	2	0	3	1	0
(2) 母体疾患	4	0.4%	4	0	0	0	0	3	1	2	1	1
(3) 前置胎盤	1	0.1%	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0
(4) 常位胎盤早期剝離	88	9.8%	83	3	0	1	3	10	75	11	76	1
(5) その他の胎盤異常	47	5.2%	44	2	0	1	26	5	16	22	25	0
(6) 臍帯の異常	74	8.2%	72	1	0	0	13	22	39	29	45	0
(7) 胎位・胎勢・回旋の異常	1	0.1%	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0
(8) 以上に含まれない新生児呼吸障害	29	3.2%	1	24	2	2	8	11	10	19	10	0
(9) 以上に含まれない胎児・新生児低酸素症	17	1.9%	6	8	2	1	2	7	8	9	7	1
(10) 以上に含まれない胎児・新生児損傷	4	0.4%	1	2	1	0	0	2	2	2	2	0
(11) 以上に含まれない低出生体重	65	7.2%	28	25	3	7	26	32	7	54	10	1
(12) 奇形	241	26.7%	115	100	19	7	22	29	190	34	206	1
(13) 胎児・新生児の溶血性疾患	2	0.2%	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0
(14) 周産期の感染	33	3.7%	12	17	2	2	4	24	5	27	6	0
(15) 多胎妊娠・双胎間輸血症候群	56	6.2%	40	11	3	2	38	13	5	28	28	0
(16) 非免疫性胎児水腫	35	3.9%	25	9	0	1	0	10	25	17	18	0
(17) その他・不明	201	22.3%	175	13	5	5	54	39	108	69	131	1
合計	902	100.0%	612	216	38	29	199	211	492	329	567	6

登録業務が各施設の自発的な参加意志によって継続されていることを鑑みれば、上述した会員のデータ使用に関する窓口を持たせる一方で、個々の登録参加施設に対して周産期専門施設として認証されるべく広報面あるいは資格面から早急に何らかのメリットを設定する必要がある。

また、本データベース開始後10年余となり、この間に諸種の疾患基準あるいは判定基準が変更され、現在の臨床の実態にそぐわない入力項目も出てきていることから、データベース内容の改変に向けての取り組みも開始したい。